

# 可能性を生かし、人と財が集まる 「由利本荘ブランド」を創造

## はじめに

平成17年3月に1市7町が合併し、沖縄本島とほぼ同じ面積を有する、県内一広大な由利本荘市が誕生して10年が経過しました。

全国的な現象ですが、本市の人口も、少子高齢化や首都圏などへの人口流出により、新市誕生時の約9万820人からこの10年間で1割以上減少し、近年その減少スピードが加速しています。

## 新市誕生10年

## 「新たなステージ」へ 総合計画・新創造ビジョン

本市の総合計画・新創造ビジョンでは、まちの将来像として「人と自然が共生する躍動と創造の都市」新たな『由利本荘市』への進化」を掲げ、「人口減少に歯止めをかけ

ること」を最重要課題とし、戦略方針を「国内外から人と財が集まる『地域価値(由利本荘ブランド)』を創造する」としています。

まちの将来像を実現するためのまちづくりの基本政策として「力強い産業振興と雇用創出」「安全・安心・快適な定住環境の向上」「笑顔あふれる健康・福祉の充実」「ふるさと愛を育む次代の人づくり」「市民主役の地域づくりと市政経営」の5つを柱に、重層的に施策を展開することにより、人口減少社会、少子高齢化などの課題解決を目指しています。

## 総合防災公園アリーナ整備

新創造ビジョンの中の象徴的な取り組みとして、総合防災公園整備事業があります。

当該整備地は、日本海から約1km

の市街地であり、緊急輸送道路に指定される一般国道7号に面し、津波想定高を超える海拔約18mの立地条件と約12haの面積を有することから、市の広域防災拠点に位置付けております。大規模災害時には、3000人が寝泊まりできるほか、物資集積拠点、集積場所、ベイスキャンプの機能を果たします。平常時には、スポーツを中心とした複合型交流拠点として整備します。

施設の概要としては、

- ①メインアリーナ 床面積3458㎡(バスケットボールコート4面) 観客席 3000席(固定2200席 可動800席)
- ②サブアリーナ 床面積640㎡
- ③武道場(1階剣道場、2階柔道場)、マシニング、ボルダリングウォール



総合防災公園俯瞰図

④地域コミュニティセンター  
⑤合宿施設(約100人利用可)  
⑥屋根付きグラウンド(1613㎡)  
⑦駐車場 約1000台  
総合防災公園アリーナの建設工事は、平成30年6月の完成、供用開始は同年10月を目指しています。  
建設工事と並行して、大会やイベント誘致の営業活動や施設の管理運営計画をつかさどる部署として、企画調整部に「総合防災公園管理運営準備事務局」を平成27年12月に設置しました。今後、部局横断的庁内プロジェクトチームが、スポーツ団体、経済団体など



「由利鉄」でギネス世界記録達成

「秀峰鳥海山」の知名度を滞在型観光誘客に結びつけるため、「鳥海山・飛鳥ジオパーク構想」を本市にかほ市、山形県酒田市、遊佐町の県境を越えた4自治体で取り組んでいます。地質遺

と連携し、官民一体となったスポーツリズムを巻き起こす取り組みを行います。  
また、国ではスポーツ立国戦略の中で「する」「観る」「支える（育てる）」スポーツを唱えておりませんが、本市では、スポーツにとどまらず、既に実践している「インターバル速歩」など、健康長寿社会実現のための中核施設として、この総合防災公園アリーナを老若男女がいつでも集える交流拠点とすることを目指しています。

## 豊富な地域資源を生かす

広大な由利本荘市には、地域資源が多くあり、その有効活用が大きな課題です。

産を保全し、科学、防災教育の学習資源として活用し、地域住民主体の活動により、持続可能な地域発展、ふるさと愛の醸成を目指しています。

また、「由利鉄」の愛称でおなじみの、第三セクター由利高原鉄道鳥海山ろく線の軌道を使い、平成27年11月3日、埼玉県立川越工業高校が乾電池を動力とする電車のギネス世界記録を達成。乾電池600個で22kmを走破という快挙を成し遂げました。経営的には厳しいローカル鉄道ですが、過疎化の進む地域の足としてだけでなく、雄大で美しい景色を楽しめる観光資源としての活用が望まれています。

平成26年、本市南部に位置する鮎川油ガス田で、国内初のシェールオイル商業生産が開始されました。産出量が日量35klと少ないものの、石油のほとんどを海外に依存するわが国にとって、貴重な地下資源を有する本市の地域価値が見直されています。

## 地域を元気に―町内会・自治会げんきアップ事業

人口減少抑制対策は、雇用の確

保や子育て支援など重層的な取り組みが求められています。本市では地域コミュニティ再生も若者定着の重要なテーマであると考えています。市内にある全488の町内・自治会を市職員が訪問し、地域住民の共通認識と課題解決に向けた合意形成を後押しする「町

## プロフィール

- ◆ 面積 1209・60km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 8万864人
- ◆ 世帯数 3万524世帯

〔将来都市像〕人と自然が共生する躍動と創造の都市

〔まちの特徴〕山（秀峰鳥海山）と川（レガッタの子吉川）と海（美しい夕日の日本海）のある自然豊かなまち

〔市町村合併〕平成17年3月22日 本荘市、矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町の1市7町が対等合併

〔特産品〕秋田由利牛、鳥海りんどう、つぶぞろい（米）、雪の茅舎（酒）、



由利本荘市長  
長谷部 誠



天寿（酒）、プラムワイン、本荘こてんまり、組子細工、ジャージー牛乳、西目りんご

〔観光〕法体の滝、花立牧場、桑ノ木台湿原、由利高原、ボツメキ湧水、天鷲城、本荘マリナー、ハーブワールドAKITA、八塩パークゴルフ場、由利高原鉄道鳥海山ろく線

〔イベント〕由利本荘ひな街道・町中ひなめぐり、菖蒲カーニバル、本荘川まつり花火大会、矢島カップMt.鳥海バイシクルクラシック、本荘追分全国大会、鳥海高原法体の滝紅葉まつり、雪上野球W杯東由利大会

内会・自治会げんきアップ事業」を展開しています。  
「町内が元気になれば若者が戻ってくる」という実例もあり、地域の将来像を描くビジョンづくりや事例学習会を実施し、地域コミュニティの再生を目指しています。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 人・地域・自然が奏でる 和みのまち 山梨市

### 山紫水明・風光明媚

「しほの山 差出の磯に すむ  
千鳥 君が御代をば 八千代とぞ  
鳴く」(古今和歌集)。これは山梨  
市にある名勝地「差出の磯」と市  
の鳥である「ちどり」が詠まれた歌  
です。本市は、古くから、甲斐と武  
蔵を結ぶ交通の要衝として栄え、  
松尾芭蕉や与謝野晶子など多くの  
歌人に詠まれてまいりました。

甲府盆地の北東部、奥秩父山塊  
と富士川水系を有する本市は、桃  
やブドウに代表される日本屈指の  
果樹生産地であり、その果樹園と  
山水が美しい景観を形成してい  
ます。

平成17年3月22日に、山梨市、  
牧丘町、三富村の3市町村の合併  
により、新・山梨市が誕生し、今  
年、市制施行10周年を迎えました。

### チャレンジミッション

本市では、持続可能な市政の発  
展を目指して、平成19年度から始  
まった第一次総合計画と、平成29  
年度から始まる第二次総合計画と  
をつなぐ重点施策「チャレンジ  
ミッション」に取り組んでいます。  
これは、「市街地やインフラの着実  
な整備」「地域資源を活かした産業  
経済の活性化」「子育て・学校教育・  
福祉の充実」の3つを柱とし、「ま  
ち・ひと・しごと創生法」に基づき  
策定された「山梨市総合戦略」の  
中核を成すものでもあります。

### 強くしなやかな山梨市

本市は「国土強靱化」における  
地域計画モデル策定都市の指定を  
受けるなど「強くしなやかな山梨  
市」を目指し、駅の橋上化や周辺

開発、幹線道路整備事業を推進し  
ているところです。また、危機管理  
対策担当を設置し、市の災害時の  
機能強化、避難場所としての市役  
所前広場の再整備、警察署との防  
災協定など災害対策の強化にも努  
めています。本市は地勢的に地盤  
が強い地域が多く、震災には特  
に強い地域とされていますが、よ  
り一層市民にとって安全・安心なま  
ちづくりに全力を挙げています。

### 農業新時代

経済連携協定が世界的な潮流と  
なる中で、本市の桃やブドウ、ワ  
インなど特産品の販売促進は、日  
本国内はもとより世界を視野に展  
開していかなければなりません。  
市内にあります「山梨県果樹試  
験場」では、世界トップクラスの  
果樹品質を目指し、最新の栽培技



山梨市出身の漫画家吉沢やすみさんの代表作「ど根性ガエル」をまちおこしに活用

術や品種開発等の研究に励んでい  
ます。

果樹栽培に恵まれた風土と環境  
を活かしながら「世界と戦う農業」  
のために、産地全体の連携強化・プ  
ランド力の向上に努めています。

本市周辺の山梨県峡東エリアは  
全国の桃収穫量の約27%、ブドウ  
収穫量の約20%を占める一大果樹  
生産地帯です。販売促進のみなら

ず、果樹生産の歴史と伝統、自然と融合した農業景観を大切に守り次世代に伝えていこうと、「世界農業遺産」への認定を目指しています。

## 公設民営産婦人科医院

地方都市が抱える少子化による人口減少問題への取り組みとして、本市では「子育てするなら山梨市」といわれるようなまちづくりを目指し、「子育て支援課」を設置するとともに、各種支援の充実を図っています。

特に、全国初の試みとなる「公



市の活性化に向けて活動する「山梨市役所女子観光プロモーションチーム」

設民営の産婦人科医院」の建設は、行政が周産期医療に携わること、安定した継続的な産科医療の確保を図り、母親の育児を支援すること、今後の希望出生率の上昇に寄与するものと期待しております。

## 女子力躍動

「女性ならではの発想や視点を観光に反映させられないか」。その思いから誕生したのが、山梨市役所女子観光プロモーションチーム、通称「女子プロ」です。市役所の所属部署も年齢も異なる女性職員が集まり、各自の資格・特技・趣味を生かした企画で本市の魅力の発信、市の活性化のために活動しています。その活動を通して、彼女達自身のスキルアップ、キャリアアップにもつながり、やりがいのある職場環境を創出しています。「おもてなし講座」をはじめ、英語翻訳、いちごジンジャーの開発、各種研修など、その活動は多岐にわたり、市内外からの問い合わせも数多くいただいております。

また、本年度は、昨今の消防団員不足に新風を吹き込むべく、市

役所の女性職員15人が、女性消防団員として入団いたしました。責任感の溢れる彼女たちが、地域の防火・防犯強化に大きく貢献してくれるものと期待します。

## ひかり輝くまち山梨市へ

人口減少の時代を迎え、山梨市では、しっかりとビジョンを策定し、安定した雇用の創出、安心して子どもを産み育て、生きがいを持って暮らせる山梨市、人の流

## プロフィール

- ◆面積 289・80km<sup>2</sup>
- ◆人口 3万6337人
- ◆世帯数 1万4616世帯

〔将来都市像〕ひかり輝くまち山梨市  
〔まちの特徴〕山紫水明、風光明媚、古代より形成され、伝統と文化のある、果樹生産の盛んなまち

〔市町村合併〕平成17年3月22日、山梨市・牧丘町・三富村が合併



山梨市長  
望月清賢



〔特産品〕ブドウ、桃、さくらんぼ、あんぼ柿、一升瓶ワイン、ほうとう  
〔観光〕西沢渓谷、乾徳山、小橋山、乙女高原、笛吹川フルーツ公園、万力公園、根津記念館、寺社仏閣、温泉施設  
〔イベント〕万葉うたまつりとホテル観賞会、笛吹川源流まつり、山梨市巨峰の丘マラソン大会

れをつくり人々の生活を支えるまちづくりを目指してまいります。「健康寿命日本一」を掲げ、市民の皆さまには「愛郷心」と「幸せ感」を育んでいただき、そのための一助として行政は何ができるか、どんな事業をすべきなのかが大切だと考えております。市民と共に一歩ずつ着実に「宝物」を大切に守り、育て、ひかり輝くまち山梨市を築いていきたいと思っています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## 五條市(奈良県)

五條市長 **太田好紀**  
おた よしのり

# わが

## 住んでよかったと思える 元気なまちづくり

### はじめに

五條市は、大阪府と和歌山県に接する奈良県の南西部、紀伊半島のほぼ中央に位置し、市の中心にはかつて水運の盛んであった吉野川が流れ、北は金剛生駒紀泉国定公園、南には世界遺産高野山や吉野大峯の山々に囲まれた豊かな自然に恵まれた市です。古くは五條という市名称の由来になったとい



藤原南家の菩提寺として知られる「国宝栄山寺八角堂」

われる旧紀州街道、伊勢街道、西熊野街道、河内街道、下街道の5つの街道が交わる交通の要衝として栄えました。また市内には、世界遺産「大峯奥駈道」、賀名生皇居跡をはじめとする南朝ゆかりの遺跡、国宝栄山寺八角堂、明治維新の先駆けとなった天誅組ゆかりの地、そして、全国で88番目の重要伝統的建造物群保存地区に選定された江戸時代の風情を残す五條新町などがあります。また「かぎやー」の掛け声で知られ、日本の花火文化の始まりを築いた花火師「初代鍵屋弥兵衛」の出身である本市では、本市最大の観光イベントである吉野川祭り、毎年8月に吉野川河川敷で開催され、日本の花火100選にも選ばれた花火と音楽、レーザー光線との共演を楽しみに、たくさんの人でにぎわいます。

### 地域の特産品・地域資源 によるまちづくり

本市の特徴としてまず挙げられるのが、秋の味覚「柿」の生産です。市町村単位では日本一の収穫量を誇り、「日本一の柿のまち奈良県五條市」ののほりを掲げ、全国各地に出向き、PR活動を展開しています。1450ha、東京ドーム300個分の広大な果樹園では、7月のハウス柿に始まり12月の富有柿までの半年間収穫期が続きます。「柿を食べると風邪を引かない」「柿は二日酔いの妙薬」「柿が赤くなると医者が青くなる」と言われるほど、柿にはビタミンや現代人に不足しがちなカロチンが豊富に含まれており、ビタミンCは緑茶の3〜4倍、みかんの2倍にもなります。自慢の甘くてお

いしい柿をぜひ一度ご賞味いただきたいと思えます。

さらに地域資源の活用として、平成27年10月には県内初となるジビエ(イノシシ・シカ肉)の処理加工施設「ジビエール五條」がオープンしました。これまで本市では、農林産物に被害を及ぼす有害鳥獣への対策として、防護柵などの設置や捕獲檻の配置を進め、猟友会と合わせ年間千数百頭のシカやイノシシを捕獲していました。新鮮なジビエは人気が高く、「ジビエール五條」では、徹底した衛生管理の下で質の高い精肉に加工し、レストランから一般のご家庭まで、広くご利用いただけるように取り組み、農作物保護のための鳥獣対策だけでなく、新たな特産品として活用することで、地域の活性化につながればと期待しています。

### 安心安全で活力ある まちづくりに向けて

現在取り組んでいる大きな施策

に、陸上自衛隊の駐屯地の誘致があります。誘致の気運の上昇は、山の斜面が根こそぎ崩壊する深層崩壊という被害により、死者行方不明者を出す未曾有の被害に見舞われた平成23年の紀伊半島大水害が大きく影響しています。当時、道路が土砂で寸断され陸の孤島となった地域における災害救助活動では、自衛隊による活動が必要不可欠であることを強く認識し、そのときの教訓を基に災害に強いまちづくりに向け、復旧復興事業に取り組みとともに、陸上自衛隊駐屯地の誘致、並びにヘリポートを併設した消防学校を含む県の防災拠点の誘致などを進めています。

2つ目としては、県産材を使い特殊な工法で、木造では県下最大規模となる新体育館が本年7月末の完成を目指し、建設工事が進んでいます。平成31年のラグビーワールドカップに始まり、翌年の東京オリンピック・パラリンピック、さらにその翌年の関西ワールドマスターズゲームズなど各種国際大会のキャンプ候補地として名乗りを上げる一方、各種のスポーツ大会を通じて地域振興を図り、本市のみならず県南部の活性化に

つなげていきたいと考えています。3つ目としては、平成28年度には、京都、奈良、和歌山を結ぶ京奈和自動車道の開通により、大阪市内や関西国際空港まで1時間でアクセスが可能となり、利便性の向上によりもたらされる経済効果に大きな期待が寄せられています。

さらに、平成27年2月には、奈良県とまちづくりに関する包括協定を締結し、市と県がお互いに連携し協力・補完し合いながら事業を進める、いわゆる「奈良モデル」によるまちづくりに取り組んでいます。市内の2地区でにぎわいがあり、また訪れてみたくなるまちづくりに向けた取り組みを行っています。



平成27年2月に奈良県と包括協定を締結

## おわりに

平成17年9月に五條市、西吉野村、大塔村が合併し10年がたちました。

合併当時、約3万8000人だった人口が現在は約3万3000人にまで減少しています。人口減は本市に限ったことではなく、全国の市町村が抱える問題でもありません。今後本市においても、新庁舎

建設や老人ホームの建て替え、少子高齢社会への対応、定住促進施策の推進など、山積している課題の解決に向けて、地方創生の波をしっかりとらえ、本年度策定した五條市総合戦略を基に、50年先を見据え将来世代の負担を軽減できるような事業の推進に努め、誰もが「住んでよかったと思える元気なまちづくり」への取り組みを進めてまいります。

## プロフィール

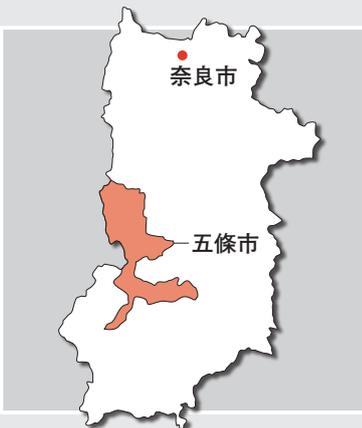
- ◆ 面積 292.02 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万2703人
- ◆ 世帯数 1万3709世帯

〔将来都市像〕豊かな自然と歴史が織りなす、なごみとロマンとふれあいの創造都市

〔まちの特徴〕古くから多くの人や文化が往来した街道や清流吉野川など、歴史、観光資源、豊かな自然に恵まれたまち。特に「柿」の生産は市町村単位で日本一



五條市長  
太田好紀



〔特産品〕柿、ジビエ（イノシシ、シカ肉）、柿の葉寿司  
〔観光〕国宝栄山寺八角堂、五條新町通り、賀名生梅林、長屋門、コスミックパーク「星のくに」、道の駅「吉野路大塔」、陀々堂の鬼はしり、まちなみ伝承館、まちや館  
〔イベント〕吉野川祭り、柿の里まつり、五條野原青空市場、川開きフェスタ

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 「住み続けたいまち」「住んでみたいまち」の実現を目指して

### はじめに

南島原市は、長崎県の島原半島南部に位置し、北は雲仙普賢岳、南は有明海に面しており、さまざまな農水産物が豊富な県内有数の農業地帯です。また、長い歴史の中で営まれてきた生活や伝統芸能が今も大切に受け継がれている地域です。

産業においては、農水産業のほか、全国第2位の生産量を誇るそうめん業が盛んであり、観光分野においては、世界遺産登録を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産である「日野江城跡」「原城跡」、日本初の「世界ジオパーク」や九州オルレ認定コースである「南島原コース」など、豊富な地域資源を有しています。

### キリシタンの歴史と「島原・天草一揆」の地

本市の歴史は、キリシタンにまつわる史実を抜きに語ることはできません。

永禄6年（1563年）、口之津の地においてポルトガル人修道士が布教活動を始め、またたく間にキリスト教は島原半島全体に広がり、教育機関のセミナリヨやコレジヨの設置、病院などの開設、キリシタン版の活字本印刷がもたらされたほか、口之津港での朱印船貿易、天正遣欧少年使節団の派遣なども行われました。

しかし、幕府のキリシタン弾圧が進行し、加えて飢饉が続く中、島原城築城による過酷な年貢の取り立ても相まって、寛永14年（1637年）、島原・天草地方の

農民が蜂起し、天草四郎時貞を総大将として「島原・天草一揆」が起こりました。総勢3万を超える一揆軍が原城に籠城して約3カ月にわたる幕府軍との戦いの末、領民らはほぼ全滅し、一揆は終焉を迎えました。その後、領民を失ったこの地域には、幕府による移民政策で小豆島などから農民が移住し、手延そうめんの技術もこのときに伝わったともいわれています。

### 世界遺産を生かしたまちづくり

平成27年1月、本市の「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が、ユネスコの世界遺産の国内推薦に決定し、9月にはイコモスの現地調査が実施されました。本年7月には、世界遺産登録の可否が決定する見通しです。

この世界遺産登録は、本市の地方創生への大きなステップだと考えています。先ごろ策定した「南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、世界遺産関係は重点プロジェクトの一つに位置付け、史跡の保全整備のほか、世界遺産関連交流プログラムや周遊マップの作成、レンタサイクルの導入、ガイドの育成、口之津港再整備など、ソフト・ハードの両面から受け入れ基盤・体制の整備を進めています。

### 九州オルレ

平成27年9月、九州観光推進機構が韓国を中心とする訪日客の誘致のため設けた九州の魅力的なトレンギングコースである「九州オルレ」に、南島原コースが認定されました。この認定は、長崎県で2例目となります。

オルレは韓国・済州島の方言で「家に帰る細い道」の意味で、自然と歴史を感じながら歩く済州島で人気の観光プログラムです。南島原コースは、有明海の潮風

を肌で感じながら、貿易港として栄えた口之津町の街並みや、のどかな畑の風景を五感で楽しんでいただきたいとの思いから「温暖な港町」をテーマとして、口之津港をスタートし、瀬詰崎灯台、アコウ群落などを通り、口之津歴史民俗資料館をゴールとする約10・5kmの自然豊かなコースです。

今後は韓国や国内の愛好者の来訪が見込まれ、世界遺産との相乗効果でさらなる観光客の増加を期待しているところです。

## 農林漁業体験民泊の取り組み

南島原市は魅力的かつ豊富な地域資源を有していますが、一方で、ホテル・旅館などの宿泊施設が限られています。このため、この地域資源を生かした体験型観光である「農林漁業体験民泊」の取り組みを平成21年度から開始いたしました。

当初、受け入れ家庭6軒でスタートしたこの事業も、現在は160軒を超えるまでに拡大し、受け入れ人数は本年度は1万2000人を超える見込みです。修学旅行生の受け入れが中心ですが、台湾・韓国を

はじめとした海外からの受け入れも増加しています。

この民泊事業は、(一社)南島原ひまわり観光協会ならびに受け入れ家庭となる農林漁家の皆さんと一体となって成長させてきたものであり、この「ゼロからスタートさせた民泊事業を関係者が一体となつて5年間という短い期間で大きな実績をあげた」という点が高く評価され、平成27年10月、「全国過疎問題シンポジウム2015 in かがわ」において、過疎地域自立活性化優良事例表彰の最高賞である総務大臣賞を受賞するという栄誉に浴しました。

この取り組みは観光振興だけではなく地域づくりの要となつており、人的交流の拡大などにもつながっています。また、受け入れを通して、普段何気ない田舎の生活が宿泊者の皆さんに感動を与え、かつ、それが受け入れ側の喜びや生きがいにもつながっていると感じています。

## おわりに

私は市長就任に当たり「住み続けたいまち」「住んでみたいまち」「南島原」を基本理念として掲げま

した。その理念実現に向け、今回は、歴史・観光分野における本年のトピックを中心として「わが市」を語ることで、その取り組みの一端をご紹介させていただきました。合併から10年を迎える南島原市ですが、本市の知名度はまだまだ低く、取り組むべき課題も数多く

## プロフィール

- ◆ 面積 170・11km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 4万8920人
- ◆ 世帯数 1万9063世帯

〔将来都市像〕 太陽の恵みと世界遺産のまち南島原

〔まちの特徴〕 雲仙普賢岳と有明海に面した、豊富な資源と特色ある歴史のまち

〔市町村合併〕 平成18年3月31日、深江町・布津町・有家町・西有家町・北有馬町・南有馬町・口之津町・加津佐町の8町の対等合併

〔特産品〕 ばれいしょ、玉ねぎ、アスパラガス、トマト、いちご、梨、葉た



南島原市長  
松本政博



〔イベント〕 原城一揆まつり、マリリンフェスタinくちのつ、ありえ浜んこら祭、フェスティビタス・ナタリス、ありえ蔵めぐり

〔観光〕 日野江城跡、原城跡、吉利支丹墓碑、有馬キリシタン遺産記念館、口之津歴史民俗資料館、イルカウォッチング、海水浴場、谷水棚田、道の駅みずなし本陣ふかえ、エコ・パーク論所原、西望公園・記念館

あります。しかし、先に述べたように、世界遺産登録をはじめ、今、南島原市には大きなチャンスが訪れています。この好機を生かして地域を発展させていくことが私に課せられた役割であると考えられています。そのための挑戦を続けていきます。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。